

検査方法の略称と概要

CF	補体結合試験
Complement Fixation Test	
補体が抗原抗体複合体と結合することと溶血反応を引き起こすことを利用した方法。赤血球に溶血素を結合した感作赤血球は補体が結合すると溶血を起こすが、抗原抗体複合体が存在すると補体が消費され溶血が阻止されることから、溶血の程度から抗体の存在を判定する。	
CLEIA	化学発光・酵素免疫測定法
Chemiluminescent Enzyme Immunoassay	
固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に二次反応させ、化学発光基質を加えて発光強度を測定する方法。	
CLIA	化学発光免疫測定法
Chemiluminescent Immunoassay	
固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、化学発光性物質で標識した抗体を抗原に二次反応させ、化学発光性物質の発光強度を測定する方法。	
CPBA	競合性蛋白結合分析法
Competitive Protein Binding Assay	
ラジオアイソトープで標識した物質と、これと結合する特異結合蛋白との反応に対してアイソトープを標識していない物質を競合反応させた後、結合部分と遊離部分を分離してその放射能を測定する事により被検物質を測定する方法。	
dRVVT	希釈ラッセル蛇毒試験法
Diluted Russell's Viper Venom Time	
ラッセル蛇毒は、外因系の第Ⅷ因子、接触因子、内因系の抗出血因子の関与を受けずに直接血漿中の第Ⅹ因子を活性化して凝固反応を開始し、リン脂質、カルシウム、活性第Ⅴ因子の共存下で最終的にトロンビンを生成する。抗リン脂質抗体の一種であるルーブスアンチコアグラント (LA) が存在すると上記反応系からリン脂質が消費され、その結果として凝固時間の延長をきたす。ここで過剰なリン脂質を添加して同様の反応を行ないLAの影響を予め排除した場合に、凝固時間の延長が補正されれば、血漿中の LA の存在を間接的に証明できる。	
ECLIA	電気化学発光免疫測定法
Electro Chemiluminescence Immunoassay	
抗体を結合したビーズを用いて抗原と反応させた後、ルテニウムピリジン錯体で標識した抗体を抗原に 2 次反応させ、電気化学反応によりルテニウムピリジン錯体の発光強度を測定する方法。	
EIA	酵素免疫測定法
Enzyme Immunoassay	
測定原理は RIA と同様で、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行ない、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。	
ELISA	酵素免疫測定法
Enzyme-Linked immunosorbent assay	
固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に 2 次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。	
ELISPOT	
Enzyme-Linked immunospot	
サイトカインを高感度に検出する検査方法。通常の ELISA 法の数十倍以上の感度で測定が可能。結核菌感染既往を検査する T-SPOT、TB 検査に用いられており、抗原により刺激して IFN- γ 産生細胞数を計測することで感染診断を行う。	
EMIT	多元酵素免疫測定法
Enzyme-multiplied Immunoassay Technique	
主に薬物濃度測定に用いられる検査方法。検体中の薬物とグルコース-6-リン酸脱水素酵素 (G-6-PDH) で標識されたその薬物の抗体に対する競合反応を利用したもので、抗体に未結合の G-6-PDH が、さらにニコチンアミドアデニンジヌクレオチド (NAD) を NADH に還元することによって生じる吸光度の変化を測定する事を利用した酵素免疫法の一つである。	
FA	蛍光抗体法
Fluorescent Antibody Method	
IFA	間接蛍光抗体法
Indirect Fluorescent Antibody Method	
目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行ない、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。 酵素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して未標識の抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を 2 次反応させる間接法がある。	
FEIA	蛍光酵素免疫測定法
Fluorescence Enzyme Immunoassay	
EIA の 1 つで、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行ない、蛍光基質を加えて蛍光強度を測定する方法。	
FISH	蛍光 insitu ハイブリダイゼーション法
Fluorescence In Situ Hybridization	
蛍光色素で標識したプローブを用いて標的 DNA とハイブリダイゼーションを行ない、特定の波長で発色させた蛍光部位を染色体上のシグナルとして蛍光顕微鏡下で検出する方法。	

FPIA	蛍光偏光免疫測定法
Fluorescence Polarization Immunoassay	
蛍光標識した抗原は分子量が小さい場合には液相中で活発に回転運動しており、偏光励起光をあてても蛍光の偏光度が小さいが、抗体と結合し分子量が大きくなると回転運動が抑制され、蛍光の偏光度が増大することを利用して、蛍光の偏光強度を測定する方法。	
GC	ガスクロマトグラフ法
Gas Chromatography	
固定相 (固体または液体) と接して流れる移動相 (液体又は気体) の間に物質を通し、両相への親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分離する方法。移動相が液体の場合は液体クロマトグラフィー、気体の場合にはガスクロマトグラフィーと呼ばれる。	
GC-MS	ガスクロマトグラフ・マススペクトロメトリー法
Gas Chromatography-Mas Spectrometry	
MS (質量分析) は、測定試料を気化しイオン化した後、高電圧で加速し、これを磁場に導き、ここで得たイオン化物質のエネルギー分布や電荷分布の違いによる特異なスペクトルの解析により同定、定量、構造解析を行う。この MS にガスクロマトグラフィーを組み合わせた検査方法。	
HA	赤血球凝集反応
Hemagglutination	
赤血球の表面抗原と抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。	
HEIA	ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ法
Homogeneous Enzyme Immunoassay	
検体中の抗原物質は試薬中の酵素 (G-6-PDH) で標識された測定対象物質と同一の抗原物質と反応させると競合する。その結果、抗体と結合できなかった G-6-PDH で標識された測定対象物質は G-6-PDH の酵素活性により補酵素である NAD が還元され、NADH に変換される。しかし、この酵素活性は抗体と結合することにより活性を失うため、検体中の測定対象物質の量に比例して NADH の量が増加する。吸光度によりこの NADH を測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。	
HI	赤血球凝集抑制反応
Hemagglutination Inhibition	
ウイルスの持つ赤血球凝集能が、ウイルスに対する抗体により抑制されることを利用した方法。抗原抗体複合体と赤血球を反応させ、凝集抑制の有無によりウイルスに対する抗体の存在を判定する。	
HPLC	高速液体クロマトグラフ法
High Performance Liquid Chromatography	
移動相に液体を用いる液体クロマトグラフィーで、高密度充填カラムと高圧ポンプを用いて高速かつ高精度に分離し、光学的方法や電気的な検出方法により測定物質を検出、定量する方法。	
IAHA	免疫粘着赤血球凝集反応
Immuno Adherence Hemagglutination	
ウイルス抗原と抗体の複合体に補体 (C3 まで) が結合するとその複合体は霊長類の血球に付着するようになる。この現象 (免疫粘着現象) を利用して血清中の抗体を検出する方法。	
ICP-MS	誘導結合プラズマ質量分析法
Inductively Coupled Plasma-Mass Spectrometry	
ICP は試料を気化させ、高電圧をかけることによりプラズマ化し、さらに高周波の変動磁場により高温プラズマ化させるものである。ICP-MS はこの高温プラズマを質量分析計に導入し、元素の同定・定量を行う検査方法。	
IR	赤外吸収スペクトロメトリー法
Infrared Absorption Spectrometry	
物質の赤外吸収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行なう方法。	
IRMA	免疫放射定量法
Immuno Radio Metric Assay	
RIA の 1 つで、固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、放射性同位元素 (RI) で標識した抗体を抗原に 2 次反応させる検査方法。固相化抗体と標識抗体が抗原を挟む形で結合することから、サンドイッチ法とも呼ばれる。	
KIMS	
Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution	
抗原または抗体を結合させたマイクロパーティクルを用いて抗原抗体反応を行ない、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率から測定する方法。	
LA	ラテックス凝集比濁法
Latex Agglutination turbidimetric Immunoassay	
ラテックス凝集反応を利用し、凝集に伴う反応液の濁度変化に基づいて目的物質を測定する方法。	

検査方法の略称と概要

LA	ラテックス凝集反応
Latex Agglutination	
抗原または抗体を吸着（結合）させたラテックス粒子（感作ラテックス粒子）を用いて抗原抗体反応を行ない、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体又は抗原の存在を判定する方法。	
LAMP	
Loop-Mediated Isothermal Amplification	
PCR法と同じく遺伝子増幅法の1つ。標的とするDNAの6つの領域に対し4種類のプライマーを設定し鎖置換反応を利用して、サンプルとなる遺伝子、鎖置換型DNA合成酵素、基質等を一定温度で反応させ増幅する検査方法。	
LC-MS	液体クロマトグラフ質量分析
Liquid Chromatography/Mass Spectrometry	
目的物質を高速かつ高精度に分離するHPLCに、MS(質量分析)を検出器として結合させ、検出選択性・定性機能をさらに向上させた検査方法。	
LC-MS/MS	液体クロマトグラフィータンデム四重極型質量分析法
Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry	
液体クロマトグラフで親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分解し、質量分析計でさらに質量ごとに分離して特定の質量イオンを分離・フラグメント化させ、それらのイオンを検出する検査方法。	
LPIA	ラテックス近赤外比濁法
Latex Photometric Immunoassay	
抗原または抗体を結合させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行ない、抗原抗体反応による凝集の濁度を、近赤外光を照射させて透過率を測定する方法。	
MEIA	
Microparticle Enzyme Immunoassay	
抗体固相化担体にマイクロパーティクル（微粒子）を用いたEIA法で、自動測定機器により測定される。マイクロパーティクル上に形成される酵素標識複合体量は検体中に含まれる標的物質濃度に逆相関するため、酵素基質を添加して得られる活性から換算する方法。	
MPHA	混合受身赤血球凝集試験
Mixed Passive Hemagglutination Test	
プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。それに被検検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗浄し指示血球を滴下し、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様の基準で判定を行う方法。	
NT	中和試験
Neutralization Test	
ウイルスがウイルスに対する抗体との反応により感染性が失われる（中和）ことを利用した検査方法。ウイルスと抗体を反応させた後、ウイルスに感受性のある培養細胞に接種し、細胞変性効果（cytopathogenic effect: CPE）の有無により中和抗体の存在を判定する。	
PA	粒子凝集反応
Particle Agglutination	
抗原または抗体を吸着（結合）させたゼラチン粒子など（感作粒子）を用いて抗原抗体反応を行ない、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体又は抗原の存在を判定する検査方法。	
PCR	
Polymerase Chain Reaction	
DNAが加熱により2本鎖から1本鎖に解離し、冷却することで2本鎖に戻ることを利用し、1本鎖DNAを鋳型として目的のプライマーを結合させ、DNAポリメラーゼの転写反応によりDNA合成を行なうことを繰り返し、目的とするDNA領域を指数関数的に増幅させる方法。	
PHA	受身赤血球凝集反応
Passive Hemagglutination	
赤血球の表面に抗原を吸着（結合）させた感作赤血球を用いて抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。	
RIA	放射性免疫測定法
Radio Immunoassay	
抗体に対して放射性同位元素（RI）で標識した抗原と検体中の抗原を競合的に抗原抗体反応を行ない、抗体と結合した標識抗原（結合型；Bound）と抗体と結合していない標識抗原（遊離型；Free）を分離し、その割合を放射活性から抗原の濃度として測定する方法。結合型と遊離型の分離方法（B/F分離）として、抗体を固相化しておく固相法、抗原抗体複合体に第2抗体を結合させて沈澱させる2抗体法、抗原抗体複合体を硫酸アンモニウム（硫酸）で沈澱させる硫酸塩析法、抗原抗体複合体を沈澱試薬で沈澱させるPEG法などがある。	
RPHA	逆受身赤血球凝集反応
Reversed Passive Hemagglutination	
抗原に対する抗体をある特定の動物の赤血球に吸着（結合）させた後、抗原抗体反応させると、抗原が陽性の場合には凝集を起こす性質を利用した検査方法。	

RPLA	逆受身ラテックス凝集試験
Reversed Passive Latex Agglutination Test	
RPHA法と基本的な検出原理を同じくするが、抗体の固相化担体として動物赤血球の代わりにラテックス粒子を用いる検査方法。	
RRA	ラジオレセプターアッセイ
Radio Receptor Assay	
測定原理はRIAと同様で、結合体として測定物質に特異的に結合する蛋白を用いる検査方法。	
RT-PCR	
Reverse Transcriptase-polymerase Chain Reaction	
RNAが増幅対象の場合に、RNAを鋳型として逆転写酵素（reversetranscriptase: RT）により相補的なcDNAを合成してPCRを行う検査方法。	
SBPA	結合蛋白サンドイッチ測定法
Sandwich Binding Protein Assay	
固相化した測定物質に結合する蛋白と測定物質を結合させた後、酵素で標識した結合蛋白を2次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。	
SRID	免疫拡散法
Single Radial Immunodiffusion	
ある特定の抗原量や抗体価を測定する場合に、それに対応する抗体や抗原が入ったゲルを用いた免疫拡散板に検体をスポットし、ゲル内沈降反応により生じた沈降線の直径により被検物質の濃度を定量する方法。二重免疫拡散法は沈降線の交差により判定を行う。	
TIA	免疫比濁法
Turbidimetric Immunoassay	
抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、透過率を測定する検査方法。	
TMA	
Transcription Mediated Amplification	
2種類の酵素と2種類のプライマー及び基質を用いてRNAを増幅する方法。抽出したRNAから逆転写酵素により2本鎖DNAを合成し、この2本鎖DNAを鋳型としてRNAポリメラーゼの転写反応によりRNAを合成することを繰り返し、目的とするRNA領域を増幅させる。	
UV法	紫外外部吸光度分析法
Ultraviolet Absorption Spectrophotometry	
測定原理は比色法と同様で、紫外部波長を用いて測定する方法。通常は200～400nmの近紫外部の波長が使われる。	
イムノクロマトグラフィー法	
液体をニトロセルロース膜に滴下すると毛細管現象により膜上を移動する性質を利用した免疫学的測定法。膜を移動する過程でまず色素標識抗体を結合させ、さらに固相化した抗体で抗原抗体複合体を補足する。	
インバーダー法	
DNAの三重鎖構造を特異的に認識して切断するクリベース（エンドヌクレアーゼの一種）を利用した、二段階のホモジニアスな等温反応からなる遺伝子多型の判定法。	
ウエスタンブロット法	
Western Blot	
目的とする蛋白質を電気泳動により分離し、電気的にニトロセルロース膜に転写して、目的の蛋白質に対する抗体を反応させた後、放射性同位元素又は酵素で標識した抗体を2次反応させ、目的の蛋白質を検出する方法。イムノブロット法とも呼ばれる。	
液相（核酸）ハイブリダイゼーション	
液相中でrRNAを遊離させ、化学発光物質で標識したDNAプローブを用いてハイブリダイゼーションを行ない、ハイブリットを分離剤に吸着させた後、化学発光により検出する検査方法。	
オクトロニー法	平板内二重免疫拡散法
Ouchterlony Method	
平板内二重免疫拡散法とも呼ばれるゲル内拡散法の1つ。ゲル内で抗体と抗原を拡散させ、抗原抗体反応により形成された沈降線の数や反応性の有無から、抗原と抗体の反応を確認する検査方法。	
凝固時間法	
測定対象となる因子の欠乏血漿とトロンボプラスチン、アクチン、塩化カルシウムを加え、凝固するまでの時間を測定する方法。	

検査方法の略称と概要

金コロイド免疫測定法
Colloidal Gold Immunoassay
抗原抗体反応により捕捉した標的物質に、さらに金コロイド標識した抗体または結合親和性物質（プロテイン A など）を反応させ、金コロイドの呈色により標的物質の存在を判定する。
原子吸光分析法
Atomic Absorption Method
元素試料を化学炎中や加熱グラファイト管などで元素の原子化を行ない、この原子蒸気元素固有の共鳴線をあてると原子蒸気中の原子の数に応じて吸収されることを利用して、吸光度から元素量を定量する方法。
酵素法
測定原理は比色法と同様で、測定物質を酵素を用いて特異的に測定する方法。
酵素抗体法
目的とする抗原に対して、酵素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行ない、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。酵素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して未標識の抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を2次反応させる間接法がある。
サザンブロットハイブリダイゼーション
Southern Blot Hybridization
制限酵素で消化した DNA を電気泳動により分画し、1 本鎖 DNA に変性後、毛細管現象を利用してナイロンメンブレンに転写して、標的プローブとハイブリダイゼーションを行ない、目的の遺伝子を検出する方法。DNA の量的、質的変化の異常を解析する場合に用いられる。
超遠心法
超遠心器を用いて蛋白質の比重の差により分離し測定する方法。
電気泳動法
Electrophoresis
荷電粒子の浮遊する電解質溶液に通電すると、粒子は各粒子の荷電と逆の極側に移動する現象を利用し、移動度から目的の物質を測定する方法。水溶液支持体にはセルロースアセテート膜、アガロースゲル、ポリアクリルアミドゲルなどが用いられる。
電極法
電極と溶液界面における電荷移行反応を利用した方法。イオン選択電極は特定のイオンに反応し、イオンの活量の対数に比例して生じる電位差からイオンの濃度を測定する。
ネフェロメトリー
Nephelometry
抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、光の錯乱強度を測定する方法。

バイオアッセイ法	生物学的検定法
Bioassay	
生物または組織、細胞などを用いて生物学的応答により生物作用量を主に評価する方法。	

発色性合成基質法
ヘパリンを加えて AT- III - ヘパリン複合体を形成させ、そのトロンビン不活化能をトロンビンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

比色法
測定物質を着色物質に変換後、可視部波長を照射して吸光度を測定して色調を標準液と比較する方法。

比濁時間分析法
Turbidimetric Time Assay
エンドトキシン測定法の1つ。エンドトキシンの存在下にカプトガニ血液抽出物中の凝固成分が段階的に活性化され、最終的に生成したコアグリンがゲル化する性質を利用した方法。ゲル形成時間が反応初発時のエンドトキシン量の2回対数に反比例することから量を測定する。

フローサイトメトリー法
Flow Cytometry
蛍光色素で標識したモノクローナル抗体で染色した細胞を高速度で流しながらレーザー光を照射し、前方散乱光（細胞の大きさ）や90°散乱光（細胞の内部構造）と蛍光強度（細胞表面の対応抗原）から個々の細胞を解析する方法。2種類の蛍光色素を用いて二重染色を行ない解析する場合は Two-Color フローサイトメトリーと呼ばれる。

ベセスダ法
Bethesda
主に血液凝固系検査に用いられる検査方法。凝固因子インヒビター測定の場合は目的とする凝固因子の正常血漿と被検血漿を混合・反応させ、反応前と反応後の残存凝固因子を測定し、その比により Bethesda 算定図より凝固因子阻止量を読み取る。

リアルタイムPCR法
PCR法を基本原理とする核酸増幅法の1種であり、分解により蛍光を発するオリゴヌクレオチドを利用することにより、PCR サイクルごとに蛍光信号を確認することでリアルタイムにターゲット核酸の定量が可能となる測定方法。

³H - サイミジン取り込み能
³ H - Td R uptake
リンパ球が非自己抗原による刺激に反応して芽球化する現象を利用した方法。リンパ球に刺激物質と ³ H- サイミジンを加えて培養し、DNA合成により ³ H- サイミジンが細胞に取り込まれる量を放射活性として測定する。刺激物質には PHA、ConA、薬剤などが用いられる。

基準値・単位の略称

「基準値」の欄の略称 M：男性（Male）F：女性（Female）

単位の略称	
L	liter (= 1000mL)
dL	deciliter (= 0.1L = 100mL)
mL	milliliter (= 0.001L)
g	gram
mg	milligram (= 0.001g)
μg	microgram (= 10 ⁻⁶ g)
ng	nanogram (= 10 ⁻⁹ g)
pg	picogram (= 10 ⁻¹² g)
U	Unit
mU	milli Unit (= 0.001U)
μU	micro Unit (= 10 ⁻⁶ U)
IU	International Unit
mIU	milli International Unit (= 0.001IU)

単位の略称	
mmol	millimole (= 0.001mol)
μmol	micromole (= 10 ⁻⁶ mol)
nmol	nanomole (= 10 ⁻⁹ mol)
pmol	picomole (= 10 ⁻¹² mol)
fmol	femtomole (= 10 ⁻¹⁵ mol)
M	mol / L
mEq	milli Equivalent (= 10 ⁻³ Eq)
Meq	mega Equivalent (= 10 ⁶ Eq)
mOsm	milli Osmole
cpm	count per minutes
%	percent
‰	permille
S.I.	Stimulation Index